

令和4年度自己評価表

愛媛県立南宇和高等学校  
学校番号(44)

教育方針		自由闊達で進取の気風を持ち、広く高い知性を求めて深く学び、豊かな未来を創造する個性あふれる生徒を育成する。		重点努力目標	起こせ！イノベーション
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善策
学校経営	1 地域に開かれた学校運営	学校・地域の有為な人材活用の推進	A	総合的な探究の時間等で、地域人材を講師として活用し、有意義な活動が実施できた。	総合的な探究の時間を充実させるために、広く地域の人材を活用する。
	2 学校の魅力を情報発信	学校ホームページを毎日更新、「南高通信」を毎月発行	B	学校の特色ある活動を分かりやすくまとめ、中学校の生徒や保護者に向けて、毎月1回南高通信を配布した。ホームページを週4回程度更新した。	ホームページ更新者に偏りが出ないよう、また、本校の多面的な魅力発信のために全教職員が取組む意識を持ち、毎日更新する。南高通信も掲載内容が偏らないよう、本校への進学に関する情報も取り入れる。
	3 皆勤率の向上	全校の1か年皆勤者数180人以上 A:180人以上、B:179～170人、C:169～160人、D:159～150人、E:150人未満	A	全体の1か年皆勤者数は、2学期末現在で184人であり、目標を達成した。	来年度も継続して、体調管理及び規則正しい生活習慣の確立の呼び掛け、皆勤率の向上を図る。
	4 公開授業の充実	公開授業見学者 延べ100人以上 A:100人以上、B:99～90人、C:89～80人、D:79～70人、E:70人未満	—	公開授業(2回)は、授業参観者が延べ68人であった。新型コロナウイルス感染症拡大によりPTA総会が書面開催となり目標を達成できなかった。	公開日を保護者が来校しやすい日に設定し、学校ホームページやまちこみメールを活用して、案内方法を工夫しより多くの方に参観してもらい、授業改善等に生かす。
学習指導	5 家庭学習の充実	家庭学習(自主学習)1日2時間以上 A:2時間以上、B:1時間59分～1時間30分、C:1時間29分～1時間、D:59分～30分、E:30分未満	A	学習時間の全校平均では152分と目標を達成しているが、クラスによっては平均が51分の学級もあるので更に充実を図りたい。	一人一台端末のMicrosoft365を活用して家庭学習時間の少ない生徒への働き掛けを行い、基礎学力の定着を図る。
	6 基礎学力の定着	適切な課題提示と家庭学習状況の確認	A	適切な課題が提示され、提出期限を守って提出された課題から家庭学習状況の確認が行われた。	シラバスにおいて課題を評価する割合等を表記し、課題の重要性と確実な実施を促進する。
	7 分かる授業	ICT機器活用の授業推進と授業研究会の実施	A	研修計画の授業研究会は実施できた。しかし、生徒授業評価のICT機器使用の項では、「まったく思わない」との回答が15%以上の教科もあり、教科間の差が大きい。	Microsoft365や「えひめICT学習支援システム(EILS)」の教員向け研修会を実施し、スキルアップを目指す。また、一人一台端末の効果的な活用を推進する。
	8 ICTの活用	教科・ホームルームでのMicrosoft365及び一人一台端末の利用促進	A	教職員の学校評価におけるMicrosoft365の活用度は75%であった。アンケート機能は活用されたが、教員によって利用差があり全体としてMicrosoft365の利用促進は十分とはいえない。	Microsoft365を利用し生徒一人一台端末の利用方法の研修会を実施するとともに、教科会で利用方法について研究し、教科に応じた活用を促進する。
生徒指導	9 基本的な生活習慣の確立	校則などルールを守っている生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	B	身だしなみ指導の再指導率が14%と低く、外部のルールが守られている生徒の割合は85%であった。	いろいろな場面でルールを生徒自ら順守する姿勢を育成する。校則等については毎年生徒の意見も取り入れた見直しを行い、生徒自らが前向きにルールを守る姿勢を身に付けさせる。
	10 安心・安全な学校生活の確立	学校生活を安心して送れている生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	A	学校生活が楽しく充実している生徒の割合は93%と高かった。	パワーアップ週間や学年間の共通理解を図り、生徒の状況や取り巻く人間関係などについて担任だけでなく学年・各課で見守り、生徒に対する目配りを行う。
	11 部活動の活性化	自らの目標に向けて努力をしている生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	A	90%の生徒が部活動に積極的に参加しており、多くの部で充実した活動ができてきている。	部活動の精選等に取り組み、生徒が充実した部活動に取り組める環境を整え、生徒が充実感を味わえる部活動を推進する。
	12 学校行事の充実	学校行事が充実していると感じる生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	A	93%の生徒が学校行事に積極的に参加しており、体育祭、文化祭も盛況のうちに終えることができた。	多くの生徒が前向きに学校行事に参加できるように実施方法や内容を生徒共に検討し、生徒が充実感や達成感を味わえるものとする。
進路指導	13 進学指導及び実績	幅広い受験方式に対応した面接・小論文指導の充実を図り、進学決定率100% A:100%、B:99～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:70%未満	B	現在の進学決定率は99%である。進路実現に向けて今後も継続して指導を行う。	生徒の進路希望が実現できるように、1年から自己実現に必要な基礎学力や小論文、面接等に対応できる素養を身に付けさせ、進学決定率100%を目指す。
	14 就職指導及び実績	就職ガイダンス・面接指導の充実を図り、就職決定率100% A:100%、B:99～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:70%未満	B	就職ガイダンス、面接指導や履歴書指導をきめ細かく行い、現在の就職決定率は90%である。今後も継続して指導を行う。	就職ガイダンスや面接指導を通して、生徒の就職意識を高めさせ、就職決定率100%を目指すとともに、職場不適応を避けるための応募前見学の実施や基礎学力の向上にも取り組ませる。
	15 進路実現のための指導	担任による進路面接の実施、年5回以上(三者面談を含む) A:5.0回以上、B:4.9～4.0回、C:3.9～3.0回、D:2.9～2.0回、E:2.0回未満	A	担任による進路面接はどのクラスも5回以上実施できた。	進路に関する情報の収集の仕方を教えるとともに、進路実現のための能動的態度の育成に努める。進路面接を5回以上行うことによって、適切な進路かどうかを確認し、進路実現を図る。
	16 キャリア教育の充実	インターンシップの充実、進路ガイダンスの実施	A	インターンシップ、進路ガイダンスを計画どおり行うことができ、生徒の進路指導に寄与できた。	今後も進路ガイダンス(対面・オンライン)を工夫して、生徒の進路保障につなげる。
心の教育	17 教育相談の充実	SLAによる1、2年生全員との面談実施	A	SLAによる面談は3年生にも拡大して実施できた。	SLAによる全校生徒への定期面談に加え、不安や問題を抱える生徒の面談を積極的に行い、情報の共有を行う。
	18 人権・同和教育の充実	教職員の資質の向上と生徒の日常生活に生きる人権・同和教育の推進	A	新型コロナウイルス感染症の影響で「つくし会」への参加数は少なかったものの、実践報告を行うなど有意義な参加ができた。	「つくし会」には担任等が積極的に参加し、地域の実態を理解し地域と連携した活動を推進する。
	19 朝読書の定着	朝読書によって、本を全く読まない生徒をなくす	B	朝読書によって毎日10分の読書時間を確保できたが、それによる読書習慣の定着につながっていない生徒がみられる。	朝読書が有意義な時間となるように「一斉に始める」「みんなで毎日読む(教員を含む)」ことを徹底し、読書の習慣化に向けて全校体制で取り組む。
	20 図書館教育の充実	図書館の充実を図り、生徒の読書冊数を年間一人4冊以上 A:4.0冊以上、B:3.9冊～3.5冊、C:3.4冊～3冊、D:2.9冊～2.5冊、E:2.5冊未満	A	図書館だよりを毎月配布し図書館の利用促進を図ることができ、年間読書冊数4.7冊と目標を達成することができた。	生徒にとって魅力的な本の設置に取り組み、図書館だよりの毎月配布を継続し図書館利用促進に努め、生徒の読書冊数向上に取り組む。
地域連携	21 教育機関の連携	小学校・中学校・高校との交流学习の実施及び参加回数10回以上 A:10.0回以上、B:9.9～9.0回、C:8.9～8.0回、D:7.9～7.0回、E:7.0回未満	—	新型コロナウイルスの影響により活動が制限され、小学生との交流学习は7回にとどまった。	幼少期の農業への理解と体験が重要と考え、特に小学校との交流学习を充実させる。運動部を中心に小中高が連携した活動へと広げていく。
	22 地域資源の活用	イベントやコンテストの参加を通して、特産品のPR活動を実施	A	「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」の内閣府特命担当大臣を受賞するなど多くのイベントに出場し結果を残した。	近年、愛南ゴールドの加工品が注目を集めており、機を逃さず充実したPR活動を実施し、地域団体や企業との連携が継続できる体制を作る。
	23 地域交流・地域貢献	地域交流参加生徒数延べ500人以上 A:500人以上、B:499～470人、C:469～440人、D:439～400人、E:400人未満	—	新型コロナウイルスの影響により多くのイベントが中止され、参加人数が313名にとどまった。	地域交流や地域貢献が地域の活性化につながると考え、新しいアプローチを検討するとともに、平素から生徒へ安全対策を意識させて準備・活動を行う。
業務改善	24 環境美化の推進	校内の清掃活動に積極的に取り組む生徒90%以上 A:90%以上、B:89～85%、C:84～80%、D:79～70%、E:70%未満	B	清掃や環境美化へ積極的に取り組んだ生徒が85%であった。清掃への意識を更に高めさせなければならない。	美化委員からの呼びかけを工夫したり、担当教員がより具体的な指示を出したりするなど、清掃活動への意識向上を図る。
	25 教育環境の整備の推進	施設設備の整備推進	A	各教室のWi-Fi、電子黒板を予定どおり整備することができた。	必要な設備や物品を整備できるよう、予算の確保及び速やかな執行に努める。
	26 働き方改革の推進	部活動休養日(ノ一残業デー)の実施	A	週に1回木曜日を「ノ一残業デー」として、働き方改革を進めることができた。	仕事の効率化、ワークライフバランスなど個人の意識改革を促す。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。